
透明な水

クロエ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

透明な水

【Nコード】

N2763B

【作者名】

クロエ

【あらすじ】

終わらせなければいけない恋がある。頭では分かっているはずなのに、心がついてこないのはどうしてなんだろう。ある日、ユキはその恋を終わらせるために、ある嘘をつく。しかしそれが彼女を思いがけない方向へと導いていくとは・・・。

終わりの始め

車が通るたびに、降り積もったレモン色の銀杏の葉が青い空に舞い上がる。

「きれいだなあ。」

そう呟いて、ユキは携帯を取り出した。

また車が通った。ユキは写メールのシャッターをきった。

写真を確認して満足そうなユキは、その写真を添付ファイルにして、アドレスを検索した。

しかし、サ行をスクロールして、とあるアドレスまで来た時、ユキは携帯を閉じた。

私から連絡を取っちゃいけない。もうやめなきゃ。そう自分に言い聞かせるように、唇をきゅつと結んだ。

空を仰ぐ。冷えた空気が頬をなでる。うん。大丈夫。ユキは笑顔が無理やりに作り、歩き出した。しかしその笑顔はすぐに歪んでしまった。メールを、彼からのメールを着信したからだ。

第2話 s u b ..無題

” s u b ..無題”

彼はいつもメールに件名を入れない。

そこに「ごめん」でも「元気？」でも、何か一言あれば心の準備が出来るのに、とユキは思う。

ユキは大きく深呼吸してメールの本文を開いた。

「ユキ、どうしても会って話がしたいんだ。メールじゃ伝わらない。これで最後にする。」

いつも二人で行った、恵比寿のカフェで待ってる。

ずっと待ってるから。今すぐ来てほしい。」

彼には明日とか明後日がない。

今会いたいと言ったら、もうその瞬間から待ち人を待っているのだ。そうしてずっと、何時間でも待っている。

今日は行けないと言っても、ずっとずっと、待っているのだ。

ユキは一度彼に会いに行かなかった事がある。

その日は身内の葬式が入ったので遠出しなければならず、どうしても行けないということを彼に伝えた。

でも彼の返事は

「待ってる。」

それだけだった。

結局ユキは親戚の家で長居をしてしまい、その日はそのまま親戚の家に泊まろうということになったのだが、深夜になって、彼が待っていると言った店の店員からユキの携帯に、彼女が来ない限り彼が帰らないと言って困っているという連絡が入った。

その夜、彼は結局店の前で一晚を明かし、ユキはユキで朝一番の電

車に乗り込んで彼を迎えに行くはめになった。

「今日で最後にする。」その言葉をユキは待ち望んでいたはずなのに、最後になんて本当にできるの？とユキは思ったりもする。

終わらせなくてはいけないという思い、終わらないのではないかという不安、そして、本当は終わらせたくないんだという押し殺している痛みを感じながら、ユキはメールを返した。

「今から行く。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2763b/>

透明な水

2011年1月16日02時32分発行